

根室市の一年

平成26年12月1日(月)

地域懇談会や市民会議などで多くの市民の皆さんと議論を重ねてきた、平成27年度からスタートする「第9期根室市総合計画」(計画期間平成27年〜平成36年)の策定作業が、いよいよ大詰めを迎えています。

今年、3月の大雪により、1879年(明治12年)の気象観測開始以来最大となる115センチの積雪に達し、国道・道道など主要道路がほとんど通行止めになったほか、JRやバスの運休も相次ぎました。その影響から、1915年(大正4年)以来、約100年ぶりに積雪72センチと観測史上最多(タイ)で4月を迎えました。

2014年も残すところ1カ月となりました。さまざまな出来事があったこの一年を振り返ってみましょう。

1月

6日 市立根室病院の正面玄関前駐車場が供用開始となり、全ての施設が利用できるようになる。

11日 市内6カ所目となる温根元野鳥観察舎(温根元ハイド)がオープンする。

12日 平成26年根室市成人式を総合文化会館で開催し、228人が新たな一歩を踏み出す。

28日 ベトナム・ホーチミン市を訪問していた根室市アジア圏輸出促進



4月

1日 1915年(大正4年)以来、約100年ぶりに積雪72センチ(観測史上最多タイ)で4月を迎える。また、3月31日の荒天の影響を受け、沖合にあった流水が一気に沿岸へ押し寄せ、海上

28日 沿岸部33カ所に浸水想定域外への方向と距離を示す「津波そ上高啓発看板」を設置する。

となる115センチの積雪に達したと発表する。国道・道道など主要道路がほとんど通行止めになったほか、JRやバスの運休も相次ぐ。



【左=どぐう女子 ・ 右=チャシ女子】
日本百名城選定を契機に、根室半島チャシ跡群を訪れる観光客などが増えたことをうけて「根室半島チャシ跡群を広める会」が、チャシ跡群PRキャラクター(チャシ女子・どぐう女子)を作成する。



8月

17日 歴代で一番目に多い667人の参加のもと、第33回北方領土ノサップ岬マラソン大会を行い、招待選手の公務員ランナー川内優輝選手とともに健脚を競う。



31日

第10回北方領土まで歩く会を行い、ゲストウォーカーのシドニー五輪競泳銅メダリスト田中雅美さんと参加者1,055人が、汗を流しながら楽しくウォーキングする。

9月

9日 根室市総合防災訓練が、花咲港マイ

2月

協議会が、初めて現地のマスコミ向けプロモーションを行う。

1日 市立根室病院完成記念式典を挙行し、医療関係者や市民など約200人が出席する。

8日 ソチオリンピック開会式に合わせて、5回目の日ロ首脳会談がロシアのソチで行われる。

15日

北方領土元島民の実話を基に描かれたアニメーション映画「ジョバンニの島」の試写会を北方四島交流センター（二・ホ・ロ）で行い、元島民や市民約370人が感動に浸る。



3月

18日

落石地区各町内会と落石漁協が落石地区広域津波避難訓練を市・消防本部・警察署・海上保安部の協力ののもと行う。



21日

根室特別地域気象観測所が、1879年（明治12年）の観測開始以来最大

も冬へ逆戻りとなる。

22日 次期総合計画に広く市民の意見を反映させるためのまちづくり地域懇談会を、西部地区を皮切りに、以降東部地区・市街地地区で実施する。

30日 根室公共職業安定所は、市の新卒就職内定率が、100パーセントとなった事を発表する。

5月

13日

市移住体験住宅の利用者が、ボランティア活動（音楽）のため高齢者福祉施設を巡回する。

6月

2日

国の地域おこし協力隊制度を活用した自然野鳥観光推進員に有田茂生さんが就任する。

21日

育成不足などのため出漁延期していた貝殻コンブ漁が、6月1日の解禁から3週間遅れで一斉に出漁する。

30日

7月7日の道知事許可漁期よりも、1週間早くロシア200カイリ内小型サケ・マス漁が終漁する。

7月

10日

野上浩太郎国土交通副大臣が、納沙布岬から北方領土を視察する。

16日

電源開発株式会社が、フレシマ地区の風力発電計画の中止を発表する。



ナス10m

岸壁を中心会場として行われ、市民や33関係機 関約 2,500人が訓練に臨む。



10月

18日

山口俊一内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）が、納沙布岬から北方領土を視察し、元島民などと懇談を行う。

19日

大田昭宏国土交通大臣が、根室海上保安部の巡視船に乗船し、北方領土との中間ラインを抱える領海警備の最前線を視察する。

25日

根室高等学校（山根治彦校長）が、根室市地域防災特別授業「高校生防災会議」を各防災関係機関協力のもと行い、「高校生防災憲章」を提唱、全校生徒一致で制定する。

11月

9日

根室市文化賞贈呈式を総合文化会館で行い、齋藤宗吉氏（教育部門）・ねむろ太鼓保存会（芸術部門）が受賞する。同賞の選考は6年ぶりとなる。また、団体への贈呈は初となる。